

### 第3章 子どもの発達と事故

#### 1. 子どもの発達と事故の関連

子どもの事故は発達と密接な関連を有しており、保護者が子どもの発達を正しく理解し、その時期に多い事故と今後の発達に伴って増加する事故について知り、適確に事故防止の対応することにより大部分は防止することは可能とされる。

例えば、生後5か月を過ぎると子どもは見たものに何でも手を出すようになり、熱いものに触るなどしてやけどが多くなる。同時に何でも口にも入れるので誤飲事故が多くなる。6か月を過ぎると寝返りがうてるようになり、子どもを1人で高いところに寝かせておくとそこからの転落事故が増える。7か月頃よりお座りが可能となるが、まだ安定せずすぐに転倒する。この際に周辺の硬い家具などの縁などにぶつかり打撲事故がみられる。8か月頃になるとハイハイが可能になり、高いところからの転落や誤飲が増える。10か月頃にはつかまり立ちが可能になるが、すぐに転倒するので周囲の硬いものなどによる打撲事故が増える。12か月頃には一人歩きができるようになるもののすぐに転倒するので周囲の硬いものなどによる打撲、階段からの転落、浴室での溺水事故が増加する。

以上の例から理解できるように、子どもの事故と発達の密接な関連を有しているので、子どもの発達を理解し、それに対応することにより大部分の事故は未然に防止できることを啓発・指導することが大切である。

子どもの発達と事故 (I)					
	運動機能の発達	転落	切傷・打撲	熱傷	窒息
誕生		親が子どもを落とす		熱いミルク 熱い風呂	枕、柔らかい布団による窒息、吐乳
3か月	体動・足をバタバタさせる	ベット、ソファーよりの転落			
4か月					
5か月	見たものに手を出す 口の中に物を入れる		床にある鋭いもの (床の上)	ポット、食卓の湯、 アイロン	
6か月	寝返りを打つ				
7か月	すわる	歩行器による転落			
8か月	はう	階段からの転落		ストーブ、炊飯器、 タバコ	
9か月	物をつかむ	バギーや椅子からの 転落			ひも、よだれかけ
10か月	家具につかまり立ち をする	浴槽への転落	鋭い角の家具・建具 カミソリのいたずら		
11か月					ナッツ類
12か月	一人歩きをする	階段の昇り降りの 転落			
13か月	スイッチ、ノブ、 ダイヤルをいじる	椅子、窓、バルコニ ーからの転落	テーブルや机の角、 引き出しの角など (家の中)		ビニール袋
1歳半	走る、登る				
2歳	階段を昇り降りする	ブランコからの転落		マッチ、ライター、 湯沸かし器、花火	
3歳	高い所へ登れる		家外の石など		
3～5歳					

子どもの発達と事故（Ⅱ）						
	運動機能の発達	交通事故	玩具	溺水事故	はさむ事故	誤飲
誕生		自動車同乗中の事故		入浴時の事故		
3か月	体動・足をバタバタさせる				家のドア	
4か月						
5か月	見たものに手を出す 口の中に物を入れる		小さな玩具の誤飲 鋭い角のある玩具			タバコ
6か月	寝返りを打つ	母親との自転車2人乗り	プラスチックの接合部分のざざくれ			
7か月	ずわる					
8か月	はう	道でのヨチヨチ歩き、歩行中の事故、飛び出し		浴槽への転落事故		ボタンなどの小物
9か月	物をつかむ				引き出し	
10か月	家具につかまり立ちをする					
11か月						化粧品・薬品・洗剤
12か月	一人歩きをする					
13か月	スイッチ、ノブ、ダイヤルをいじる					
1歳半	走る、登る					
2歳	階段を昇り降りする		スベリ台、ブランコ、花火	プール、川、海の事故	乗り物のドア	
3歳	高い所へ登れる	三輪車の事故				
3～5歳		自転車の事故				

子どもの発達と事故 Ⅱ

## 2. 月例・年齢別にみた事故<sup>1)</sup>

### 1) 誕生から5か月

この月例の赤ちゃんは動きも少なく、ほとんどベッドの中で生活している。3～4か月になると首が座り、4か月になると手に触れるものは握ったり、振ったり舐めたりして遊ぶようになる。また、足をバタバタしたりして身体の移動がみられる。

事故の種類別に、その月例で起きやすい事故について挙げてみる。

- ①転落・・・○親が誤って子どもを落とす。  
○体が反り返ったり、ずり上がって移動しベビーベッドやソファなど高いところから転落。
- ②切傷・打撲・・・○少し動くようになるとベッドの柵などに頭をぶつける。  
○おもちゃの継ぎ目のバリやササクレにより口や手を切る。
- ③窒息・・・○ふかふかの布団でのうつぶせ寝による窒息。  
○布団や毛布などが赤ちゃんの上にかかったための窒息。  
○おもちゃや御守り、よだれ掛けの紐が首に巻きつきによる窒息。  
○ベビーベッドの柵とマットレスの間の隙間に頭を突っ込み窒息。
- ④熱傷・・・○冷まさずに熱いままのミルクを飲ませたことによる熱傷。  
○熱い風呂による熱傷。  
○保護者が熱いものを扱っているときに誤って子どもにかかる。
- ⑤日射病・・・○子どもだけを車の中に放置し、急に日差しが強くなり、車内の温度

が上がったための熱中症

⑥交通事故・・・○自動車に同乗中に急停止や衝突事故。

## 2) 6～11 か月

この月例になると寝返り、お座り、ハイハイ、つかまり立ちが徐々に可能になり、指で物を上手につかむことができるようになる。また、何でも口に持っていくことにより誤飲事故が多くなる。このころは発達も早く、昨日までできなかったことが急にできるようになり、保護者の事故への対応が遅れがちになる。

①転落・・・○柵のないベッドで寝返りを打つことによる転落。

○階段からの転落。

○転倒した際に家具、敷居、積み木などの角で打撲。

○安定の悪い子ども用椅子より転落。

②誤飲・・・○手に触れたものを何でも口にに入れるため、タバコや小物による誤飲。

③熱傷・・・○ポットや炊飯器による熱傷。

○ストーブによる熱傷。

○テーブルクロスを引っ張り、食卓の上にある熱いものをかぶる。

○台所で熱いものがはねたり、こぼれたりしたものである。

○赤ちゃんを抱きながら食事や料理の際に誤って熱傷。

④溺水・・・○浴槽への転落による溺水。

○洗濯機、バケツ、大きな水槽での溺水。

⑤交通事故・・・○自動車に同乗中の急停車や衝突による打撲。

⑥切傷・打撲・・・○ベッドの柵などに頭をぶつける。

○おもちゃの継ぎ目のバリやササクレにより口や手を切る。

⑦はさむ事故・・・○ドアに手をはさむ。

⑧火災・・・○赤ちゃんを一人で家に残して火災や災害に遭う。

## 3) 1～2 歳

1人で歩行できるようになり行動範囲もますます広くなり事故の多発する年齢である。

①転落・転倒・・・○階段からの転落。

○ベビーベッドを登って、ベッドの上から転落。

○窓や高い所からの転落。

○じゅうたんや敷居の段差で転倒。

○庭や公園のつまづきやすいものにより転倒。

②窒息・・・○豆類を食べ、驚いた拍子に気管内に入り窒息。

○ビニール袋や風船、細い紐による窒息。

③溺水・・・○浴槽への転落（生命を脅かすような重大な事故が多くみられる）。

○屋外での水遊び用のプール、溝、池での溺死。

④熱傷・・・○テーブルクロスを引っ張り、頭から味噌汁など熱いものをかぶる。

○カップラーメンなど熱湯の入ったものに子どもが触れ、やけどをする。

○熱いなべやアイロンに触れてやけど。

⑤交通事故・・・○自動車同乗中、衝突事故に巻き込まれる。

○運転中、突然ドアを開けて車から転落。

○歩行中の事故。

○道路上で遊んでいて交通事故に巻き込まれる。

○急に道路に飛び出し交通事故に巻き込まれる。

⑥誤飲・・・○タバコや小物の誤飲。

⑦切傷・・・○カミソリ、包丁、はさみなど刃物による切り傷。

#### 4) 3～5 歳

この年齢になると走ったり登ったり活発な動きをすることができるようになるが、まだ周囲の状況に対する判断は十分にできない。そのため、屋内から屋外での事故が多くなり、骨折など大きな事故を起こしやすい。

この年齢の事故は母親だけの気配りだけでは防止できず、社会全体による環境整備と子どもへの安全教育が必要である。

- ①転落・・・○高い所に登り転落。  
○階段からの転落。  
○ビール瓶のケースやエアコンの室外機などを踏み台にし、ベランダから転落。
- ②熱傷・・・○食事の際に熱いものをこぼす。  
○花火による熱傷。  
○マッチなどの火遊びによる熱傷。
- ③溺水・・・○川、沼、海での溺水。  
○水泳中に溺水。
- ④交通事故・・・○道路で遊んでいて車に轢かれる。  
○飛び出しによる事故。  
○自動車の中でふざけていて急停車などによる打撲。  
○自動車との接触。

#### 文献

- 1) 田中哲郎：新子どもの事故防止マニュアル改訂第3版．診断と治療社，2003